

2005年6月1日

報道各位

住友金属鉱山株式会社
住友商事株式会社

チリにおけるフェルプス・ドッジ社の銅資源プロジェクトへの参画について

住友金属鉱山株式会社（東京都港区 社長：福島 孝一）と、住友商事株式会社（東京都中央区 社長：岡 素之）（以下両社を合わせて「住友」という）は、この度、米国最大手の産銅会社フェルプス・ドッジ社（本社：アリゾナ州フェニックス市）が所有するチリのオホス・デル・サラド社に資本参加することにより、チリにおける銅探鉱および銅鉱山事業に参画することといたしました。

住友はオホス・デル・サラド社の増資引き受けにより、同社が保有するプンタ・デル・コブレ探鉱地区の探鉱権およびオホス・デル・サラド銅鉱山に係る権益を取得する予定です。資本参加に関する条件を取り決める契約については、まもなく最終合意の見込みですが、住友の出資比率は20%、出資額は25百万米ドルとなる予定です。なお、住友金属鉱山と住友商事の出資割合は、8対2です。

オホス・デル・サラド社は、フェルプス・ドッジ社の100%子会社として、チリ共和国北部ティエラ・アマリージャ市においてプンタ・デル・コブレ探鉱地区の探鉱権およびオホス・デル・サラド銅鉱山を所有しています。

プンタ・デル・コブレ探鉱地区は東西20キロメートル、南北30キロメートルの広がりを持つ地域で、その中にはオホス・デル・サラド銅鉱山および住友が既に資本参加しているラ・カンデラリア銅鉱山も存在しています。住友はオホス・デル・サラド社への資本参加を通じてこの探鉱地区に係る権利を取得いたします。プンタ・デル・コブレ探鉱地区はフェルプス・ドッジ社が既に探鉱を実施してきており、今後の共同探鉱事業の実施により有望鉱床が発見されれば新規銅鉱山の開発へと発展することが期待される地域で、長期的には操業中のラ・カンデラリア銅鉱山と合わせ、同地域が住友にとって有力な原料ソースの供給基地となることも期待されます。

一方、オホス・デル・サラド銅鉱山は、ラ・カンデラリア銅鉱山から北東約4キロメートルにある坑内掘の銅鉱山で、1日4千トンの鉱石を処理し、年間約6万トン（銅量で約1.8万トン）の銅精鉱を生産中です。同鉱山では、今後の探鉱結果によっては処理量を倍増させる可能性もあります。住友は、オホス・デル・サラド銅鉱山の銅精鉱および将来プンタ・デル・コブレ地域で開発される鉱山で生産される銅精鉱の少なくとも出資比率分を買い取

る権利を保有することになっております。

住友金属鉱山の資源・金属事業部門は、現在実行中の中期経営計画において「10年後の非鉄メジャークラス入り」を果たすことを目標に、銅については東予製錬所の年産45万トン体制を確立すべく増強を進めてきておりますが、本年7月には36.5万トンへの能力増強が完了する予定です。

以上のような銅製錬所の増強に対しては、新規銅資源の確保が急務です。先般発表いたしましたセロ・ベルデ銅鉱山への資本参加に加えて、このたびの資本参加により、有力かつ安定した原料ソースを取得でき、さらに今後の探鉱結果によっては新規の鉱源獲得も期待されることとなり、上記目標のための基盤作りが大きく前進いたしました。住友金属鉱山は、今後も安定的な資源の確保と製錬能力の増強に努め、コアビジネスである資源・金属事業の拡充・強化を進めてまいります。

住友は、米国アリゾナ州のモレンシ鉱山およびチリ国ラ・カンデラリア鉱山での共同事業を通じて、フェルプス・ドッジ社との強固な信頼関係を維持しておりますが、先般のセロ・ベルデ社に加えてこのたびのオホス・デル・サラド社への資本参加により、一層の関係強化を図ってまいります。

住友商事といたしましては、インドネシア国バツ・ヒジャウ鉱山等において保有する銅資源上流権益に、フェルプス・ドッジ社との更なる戦略的提携を加えることにより、銅鉱山事業における地歩を一層堅固なものにします。また、工業化社会の発展に必要な不可欠である金属資源の確保と長期安定供給という役割を果たすべく、商社機能の更なる充実と高度化に努めていきたいと考えております。

以上

(本件に関するお問い合わせ先)

住友金属鉱山株式会社

総務部広報室 広報統括課長 高橋 雅史

TEL: 03-3436-7701

FAX: 03-3434-2215

住友商事株式会社

広報部 報道チーム 上田 昌彦

TEL: 03-5166-3096

FAX: 03-5166-6203

(参考資料)

1. プンタ・デル・コブレ探鉱地区

カンデラリア銅鉱山ピットを中心として、東西 20km × 南北 30km の範囲

2. オホス・デル・サラド銅鉱山

【位置】 チリ第Ⅲ州カンデラリア銅鉱山の北東 4km、ティエラ・アマリージャ市街地近傍

【権益】 フェルプス・ドッジ社 100%

【歴史】 1929 年 採掘開始

1983 年 フェルプス・ドッジ社参画

1985 年 100%フェルプス・ドッジ社所有

1998 年 操業休止（銅価格低迷・生産調整）

2004 年 5 月 操業再開

【操業概要】

可採鉱量： 17Mt @ 1.32%Cu、0.27g/t-Au、坑内掘

残存寿命： 9 年

処理量： 4 千トン／日（この他に 2 千トン／日を採掘し、カンデラリア銅鉱山で処理）

生産量： 銅精鉱約 6 万トン／年（銅量約 1.8 万トン／年）

